

りょう じん ひしやう
梁塵秘抄 (重要文化財)

卷第1 残簡

室町時代末期写 1軸

縦 28cm 横 130.5cm

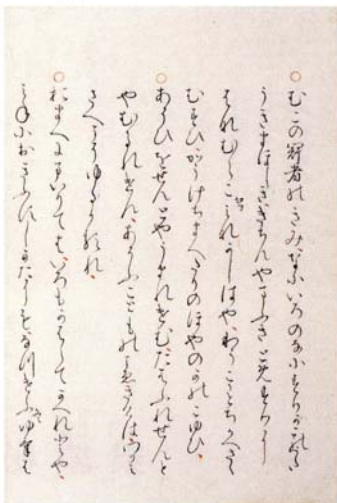
『梁塵秘抄』は平安時代末期に流行した今様歌謡の歌詞集である。源平が争った十二世紀末、王朝の政治家として手腕をふるった後白河法皇（一二七〇～九二）は、一方で若い頃より当時の流行歌である今様を愛し、唱歌の練習に励み、ついには今様専門家として本書を編纂した。

「梁塵」とは、「美しい歌声によって梁の上の塵が舞う」という古代中国の説話に基づき、すぐれた歌や音楽を意味する。本書は歌詞集十巻と、歌い方を記した口伝集十巻の二十巻よりなるとされるが、早く散逸して、江戸時代には口伝

集巻第十が知られるだけであった。

明治四十四年（一九一）以後、ここに掲げる本書巻第二と巻第一の残簡が相次いで発見され、

『梁塵秘抄』の内容が明らかになった。今日ではよく知られた「遊びをせん」とや生れけむ」という歌も、この時に初めて紹介されたものである。その発見の反響は大きく、当時の詩歌の創作にもさまざまな影響を与えた。掲出の図版は巻第一残簡で、室町時代末期の書写。書簡の裏を利用して書かれているこ



とが図版からもわかる。雅楽歌い物の名門である綾小路家に伝来したもので、『梁塵秘抄』の現存する最古の写本である。

右の図版は巻第二。歌人である国文学者の佐佐木信綱旧蔵。江戸末期書写の新しい写本であるが、巻第二の唯一の伝本として極めて貴重である。

（天理図書館 山根陸宏）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日(午前9時～午後5時半) 土・日・祝(午前9時～午後4時半)
 ただし2月29日(金)は休み
 (本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)